

相武台自治会だより

第37号
令和4年9月17日発行

相武台神社夏まつりを3年ぶりに開催しました

7月23日（土）に、相武台神社恒例の夏まつりを3年ぶりに開催しました。

開催に当たっては、コロナ対策に万全を期し、催し物を簡素化して行われました。

午前中には、座間神社宮司を迎え、氏子委員や関連の団体代表者らが参集して、夏季例大祭の式典が厳かに執り行われました。

まつりは、神輿の渡行は取り止めとなりましたが、山車の巡行から始まりました。

午後からは、地元商店会や協力団体による様々な模擬店が出店し、スイカ割りゲーム大会などもあって、まつりを満喫してもらいました。

夕方からの演舞は取り止めとなりましたが、コロナ前と同じくらいの家族連れや子供達の来場があり、思い出になる楽しい夏の日となりました。



相武台地区社協主催の「親子ふれあい教室」を開催しました

8月21日（日）に、相武台地区社協では児童と保護者を対象とした、「親子ふれあい教室」を相武台老人憩いの家において開催しました。

当日は保護者2名のほか、9名の児童が参加し、松下孝治氏を講師として、バルーンアートから始まりました。

風船を使って、犬や花などを作るのですが、初めは怖々に手を動かしていましたが、少しずつ慣れてきてコツも分かってくると、それぞれに色々な物を作り始め、大いに盛り上がりました。

お陰様で、もう一つ予定されていた「紙ヒコーキの製作」は中止となってしまいましたが、帰りにはお弁当やお菓子などと共に、袋に入り切らない程の自作の作品を持ち帰ることができました。

